（別添資料１）

事業所名　キノコにじいろクラブ

支援プログラム（参考様式）

作成日　令和７ 年 1 月 31 日

法人（事業所）理念		卒業のある福祉を目指し、学校や園地域で活躍できるように本人だけではなく周りの人たち家族も一体となって幸福度を高めあえる未来作りを子ども達と行っていく。					
支援方針		個別療育 50 分(ペアレントトレーニングを主とする)にて担当を固定せず、さまざまな視点で子どもを捉えられるようにサポートしています。保育所等訪問支援を通じて、園や学校での見立てや生活の様子を観察し、それを個別療育に反映しています。また、さまざまな手法を用いて子どもたちの能力を引き出すだけでなく、「この子は今、何を必要としているのか」という分析的視点を重視しています。子どもや保護者が抱く思いを大切にしながら、クライアント中心の療育に取り組んでいます。					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	一部あり
		支　援　内　容					
本人支援	健康・生活	食事や環境要因について面談を通じて、体の内部環境を整えることで、外部環境からの刺激に適切に対応できるように、保護者と連携を図りながらサポートしています。また、ペアレントトレーニングを通じて、療育現場だけでなく、自宅でも実践できる方法を的確に伝え、フィードバックを繰り返しながら、子どもが育ちやすく、保護者が育てやすい環境をサポートしています。さらに、保護者だけでなく、関係者とも連携を図りながら、必要に応じて面談を行い、その子がどのように成長していけば目標を達成できるのかを共有しながら、随時進めています。					
	運動・感覚	発達のピラミッドを中心に、原始反射の統合や一人ひとりの能力を適切に評価し（感覚プロファイル、臨床観察、PVT-R、グッドイナフ、行動分析など）、体の土台づくりを行いながら、子ども自身が自分の行動によって何かを変化させたという経験を引き出すアプローチを行っています。また、自宅でできるエクササイズなどもペアレントトレーニングで伝え、随時効果検証を行っています。さらに、保育所等訪問支援を通じて、園や学校でできる活動も伝え、一緒に取り組むことで、その子だけでなく、周りの子どもたちとも共に高め合えるように支援しています。					
	認知・行動	年に数回、「臨床観察」という実践的な研修を行うことで、職員一人ひとりの観察力を養い、その子が今何を必要とし、何を求めているのかを見極めます。主観的な見立てではなく、その子本人が示す客観的な事実を捉えることで、本人の能動的な意欲や感情を引き出し、認知行動をより良い方向へ導く取り組みを行っています。既存のアプローチは、一歩間違えると型にはめることになり、本人の主体的な意図が省かれ、諦めを生んでしまうことがあります(時に癇癪や暴言など)。そのため、一歩引いた視点でその子に寄り添い、本人中心(クライエント中心の支援)を心がけています。					
	言語 コミュニケーション	園や学校でうまく自己表現ができない子、一方的に話をして相手の感情を読むのが難しい子、また、保護者が先行して手を出したり言葉をかける家庭など、さまざまな事例があります。個別療育では、基本的に遊びを中心に体を動かすことで、子どもが言葉を発したくなったり、自己表現の喜びを感じたりする機会を提供します。また、相手の言葉を受け入れることで活動がうまくいく経験を積んだり、保護者が見守ることで子どもの笑顔を引き出し、それを実体験として経験することで、言葉やコミュニケーションの楽しさを学んでいけるようにサポートしています。					
	人間関係 社会性	クラスの中で他者を傷つけたり、先生の言うことを聞かずに別の行動をとる子、クラスに馴染めず学校に行けなくなった子、身の回りのことができず生活習慣が整わない子など、さまざまな事例に対して、個別対応で一緒に考え（方眼ノートメソッドを活用し）、スモールステップで「できた！」を経験できるようにサポートしています。 また、クラスの中で「未来会議」（みんなで一人の子について考える時間）を作業療法士がファシリテーションし、実施することもあります。					
家族支援		ペアトレ、面談、保護者勉強会、保護者会、そして年に一回実施している「徳之島こども支援学会」(キノコにじいろクラブ主催)にて、学べる場を提供しています。また、方眼ノートを活用し、自ら切り開く力を育てるためのサポートも行っています。				移行支援	会議の開催を通して移行先と連携会議を密に行っている。
地域支援・地域連携		保育園や幼稚園、学校では、定期的に研修の講師として作業療法士が招かれることがあり、一緒に子どもの見立てを共有したり、発達支援について学ぶ場があります。また、地域の習い事の講師とも連携し、支援の共有も行っています。				職員の質の向上	定期的に職員研修を実施。臨床観察、方眼ノートで事例検討、保護者会で職員が発表。外部研修への参加の機会を確保しています。
主な行事等		月に一回程度イベントを開催し、個別療育では見られない子どもの姿を観察することで、支援に繋げています。また、地域のボランティアスタッフと共に、支援を受けている子どもたちとの交流も行っています。〈イベント例〉かくれんぼ大会、味噌作り、キャンプ、魚釣り、徳之島コーヒー収穫祭、ボードゲーム大会、アート系イベント等。					